

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	令和1年9月5日
評価確定日	令和1年10月4日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和1年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800104	事業の開始年月日	平成20年2月1日	
		指定年月日	平成20年2月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	春風の丘			
所在地	(224-0014) 神奈川県横浜市都筑区牛久保東3-23-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和1年8月15日	評価結果 市町村受理日	令和1年10月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春風の丘は、平屋建ての建物と広々とした庭園があり、四季折々の花が咲き乱れております。園芸療法を取り入れ、花の手入れや水やりを一緒に行っております。又、庭園でバーベキューや焼き芋大会を行い、外の空気に触れる機会を多く作っております。地域との交流も深く、防災協定の締結や、お祭り・敬老会への招待など、地域の方に支えられ、安心・安全な生活が送れている事を感じます。医療体制も法人内の診療所と契約している為、24時間の医療連携が確保されております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和1年9月5日	評価機関 評価決定日	令和1年10月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人秀峰会の経営です。同法人は、横浜市を中心に介護・医療・保育・障害者・障害児支援サービスを展開しており、介護事業では、居宅介護支援・訪問介護・夜間対応型訪問介護・定期巡回・訪問介護・特別養護老人ホーム・グループホーム・ショートステイ・デイサービス・小規模多機能型居宅介護といった多岐に亘る介護事業を展開しています。その他にも、クリニック・訪問看護、保育園、障がい者・障害児支援サービスなど、包括的・統合的な福祉サービスを提供しています。現在、グループホームは9事業所を運営しており、ここ「春風の丘」は8番目に開設されたグループホームです。立地は横浜市営地下鉄・グリーンライン「センター北」駅から15分程歩いた閑静な住宅地の中にあり、周囲には緑道や公園、畑などがある長閑な環境下にあります。

●管理者は「利用者が日々を豊かに送ってもらえるように」との強い思いの下、毎年新しい取り組みにチャレンジしています。今年は週1回利用者職員で「ラジオ体操」を始めました。ラジオ体操は職員も業務を中断して、一緒に行うことで利用者の活動意欲につながっています。事業所では現在、春風喫茶(毎月)・園芸療法・ケア体操などの取り組みを行っていますが、職員も率先して活動に関わっており、利用者が毎日を充実して生活できるように、管理者と職員が一丸となって支援しています。管理者は現場に入ることが多く、常に職員の見守りで見守ることで職員が困っていることや業務改善案を自ら模索し、環境改善に取り組み、職員が働きやすい職場の環境整備に注力しています。職員の勤続年数は3~4年程ですが、介護の経験年数の長い職員が多く、毎月の会議の中で活発な意見交換が行われています。実際に、居室で過ごすことが多かった利用者について職員で話し合い、ベッドを外が見える位置に移動したり、窓辺に好きな花を飾り、家族の写真を引き伸ばして大きく飾る等の細やかな配慮がされています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	春風の丘
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝の朝礼時に唱和をする。又、ご利用者が主体的な生活を送れるように、要望には耳を傾ける	法人の理念「①人間が主体である②連帯の輪を無限に広げていく③日に日に新たな今日を創造していく」を毎朝の朝礼時に唱和すると共に、名札に理念と行動規範が記された「羅針盤」を携行しています。さらに、毎月の全体会議の中で理念について勉強会を行い、職員が理念の意味を理解できるようにしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	牛久保東町内会への加入をし、地域行事には積極的に参加している。又、年に一度の施設のお祭りへも地域の方を招待し、感謝を伝える場としている。	地域との関りも密接で、町内会に加入し、回覧板も回していただいています。地域の行事も盛んで、敬老会・盆踊り・芋煮会・虫送り・地域の防災訓練にも参加し、盆踊りでは利用者も民謡を披露するなど、地域の一員として交流を深めています。また、事業所の秋祭りには地域の方を招待して、盛大に行われています。ボランティアは、ちぎり絵・将棋・ギター演奏の方、そば打ち体験(今年から)が来てくれています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験の場を設け、認知症支援の手助けをしたり、理解を深めて頂いている。近隣の小学校へ認知症サポーター養成講座の講師としても、毎年参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解して頂き、意見交換を行っている。また、話し合われた情報や地域の方の助言を職員間で共有し、日々のケアに活用している	町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・利用者の参加を得て偶数月に開催しています。事業所の現状・活動報告を行った後に、地域の情報をいただいています。避難訓練についてはアドバイスなどもいただき、内容に反映させています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加して頂いている。その中で、日々の支援への報告や助言を頂いている	地域包括支援センター職員には毎回運営推進会議に参加いただいております。事業所の取り組みや現状について理解していただいております。毎年、都筑区からの依頼を受け、近隣小学校にて認知症サポーター養成講座の講師として参加するなど、協力関係を構築しています。さらに、グループホーム連絡会にも参加しており、研修会等の案内が届いた際には、極力参加して情報収集に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業部研修の中で、身体拘束廃止の研修を設け参加している。参加者は、全体会議の場を通じて内容を伝え、全職員に落とし込んでいる。又、3ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会を設定し、身体拘束や虐待に結びつかない様な取り組みをしている	事業部研修に組み込まれており、研修に参加した職員は、全体会議の中で伝達研修を行い、全職員に周知しています。また、3ヶ月毎に管理者、各ユニットリーダーで身体拘束委員会を開催し、現在拘束の必要な利用者の有無や対応について検討会を行い、身体拘束や虐待を未然に防ぐ取り組みを行っています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修の中で、虐待防止の研修を設けてそこに参加している。又、年に一度虐待防止チェックリストを活用し、日々のケアと照らし合わせて認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に研修に参加し、他の職員へ周知している。成年後見制度の利用されている方、又今後利用を考えているご家族へは、相談と情報の提供を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者とユニット長や計画作成担当者を同席させ、丁寧な説明と伝え洩れがない様な体制をとり入れている。その際、ご家族の要望などに関しては、ユニット長が親身に対応し、信頼関係を構築できる様につとめている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、代表者の意見や助言を伺い、反映させている。又、家族会の時にも、意見や要望を伺い、ケアに反映させている。意見箱の設置も実施している。	玄関に意見箱を設置し、自由に意見を表出できる体制を整えています。年1回の家族会では、毎回多くの家族が参加しており、今年度は14組26名の家族が参加するなど、家族とも良好な関係が構築されています。また、毎月開催している春風喫茶には、毎回14～15組の家族が参加し、個別に近況報告やケアプランの内容を家族に伝えながら意見や要望を伺っています。更に担当者からのお手紙を毎月している他、年3回発行している「春風の丘通信」では写真等を織り交ぜながら事業所での生活の様子をお伝えしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、正職員会議を設定し、各職員からの意見を大切に、事業所の運営に反映させている。事業部長や副事業部長にも参加して頂き、報・連・相の場としている	法人9事業所の管理者が集まるホーム長会議が月に1回あり、ホーム長会議の内容を月1回の正職員会議と全体会議の中で全職員に伝えています。管理者は常に風通しの良い職場環境の整備に尽力し、積極的に現場に入って職員と同じ目線に立ち、職員がケアで困っていることを模索し、全体会議の議題に挙げて意見交換をしながら業務に反映させています。また、年1回は職員との個人面談の中で、個人目標や悩みごとを聞くようにしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとに、正職員を対象とした評価制度を導入し、実績や達成評価を面談して昇給昇格へ反映出来る様につとめている。又、全職員へ業務改善に向けたアンケートを実施して、働きやすい職場環境が提供出来る様に心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で、必要な研修に参加出来る様に勤務調整している。又、月に一度の事業部研修も全職員がローテーションで参加出来る様に調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員と交流する機会を定期的に作っている。都筑エリア内のGHとの交流は、特に多く、合同イベントの実施や、お互いのお祭りへ足を運び、協力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の施設見学の際に、アセスメントを実施し、要望を伺っている。又、入居し1ヶ月間は、より手厚いケアを実施し、不安な気持ちにならないように心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時には、時間を設けて相談出来る場面を作っている。ユニット長も同席する事で、お互いの意向確認が出来る環境を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は日々変化していく事を伝え、将来の変化を予期する事は必要だが、現段階で何が必要で何が出来るのかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、日常生活の中で、家庭的な雰囲気づくりを重視し職員と共に活動して頂く様に努めている。常にご利用者が主体でいられる様な環境作りを提供している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力しあう事で、ご本人が安心した生活が送れる事を説明し、様々な場面で協力頂いている。又、毎月実施している春風喫茶にもお誘いし、ご家族様と憩いのひとときを提供している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と連携して、友人や地域の方との交流が継続出来る様に努めている。行きつけの理髪店・歯科など、顔見知りの方との関係を継続し、住み慣れた場所で生活して頂く事をサポートしている。	入居者は近隣に住んでいた方が多く、近所だった方や友人の訪問もあり、家族が付き添い出来ない時などは家族の代わりに友人が付き添って、外部の病院に通院されることもあります。家族の面会も多く、年末年始に家族と外泊される方やお墓参りに出かけている方もいます。毎年、お正月には入居者に年賀状(書ける範囲)を書いていただき、家族宛に投函している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで過ごす時間を大切にし、職員が間に入る事でコミュニケーションがスムーズに図れる環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所先の施設への訪問や、退所後の郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話での連絡も行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人と会話をし、願いや希望を聞きだし把握している。又、ニヤリ・ホットノートを活用し情報の収集に努めている。その情報を基に、カンファレンスの中で共有化し、ケアプランに反映出来る様に取り組んでいる	入居時のアセスメントで過去の生活歴や既往歴、事業所での暮らし方の希望を伺っています。入居後は日々の関りの中で得られた情報を支援経過記録に記入すると共に、何気ない言葉や反応を「ニヤリ・ホットノート」に書き込み、様々な視点から情報収集に努めています。管理者は、必ず「入居者と関わる時間を作る」ようにと職員に伝えており、入居者の思いを可能な限りケアプランに反映させることで、その方の思いや意向に沿った支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用などの状況をご本人やご家族様から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースに合わせた生活を送って頂く様にコーディネートしている。毎日の日課や家事活動など、出来る限り参加して頂いている。朝礼時に、心身の状態を共有する時間を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの前に、一人一人のモニタリングを実施している。その中でプランの見直しをする時期には、全職員の意見を反映するように努めている。ご家族様へも、プランに対してのご意見を頂戴している	カンファレンス前に全職員にモニタリング表を配布し、計画作成担当者がその内容を集約して、カンファレンスでアセスメントを行い、ケアの課題やケアプランの達成状況について振り返りを行っています。毎月開催している春風喫茶には多くの家族が参加されるので、家族に計画作成担当者がケアプランの説明や、希望や要望を伺い、介護計画に反映させています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を出勤時に確認し、情報共有している。変化が見られた際は、カンファレンスの中で取り上げ、介護計画へ反映し、随時見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に住むボランティアの方に依頼する事で、ホーム内の多彩な活動(ちぎり絵・フラダンス・将棋・傾聴)を行い、ご利用者の生活が豊になるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を利用させていただきながら24時間365日の医療連携に努めている。初診の際は、必ずご家族とDrが面談する時間を設けご家族の希望やDrの診療方針を説明している。ご本人・ご家族が納得する診療内容になるように橋渡しをしている	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。現在は、全員が協力医の「みずほクリニック」から月2回の訪問診療を受けています。初診時には必ず、家族にも同席してもらうことで家族の不安を取り除くようにしています。歯科は、月2回の診療と週1回、衛生士による口腔ケアが行われています。訪問マッサージを受けている方は3名います。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関により、週一回看護師が訪問し、その時にご利用者の状況を共有・把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ、早期対応が出来る様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を関係医療機関に対して、速やかに提出している。又、途中経過としても適宜面会をして、様子観察に努めている。退院にむけても、入院先のソーシャルワーカーと連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回の契約時に重度化や終末期に係る指針を説明し、事業所が対応可能な範囲についてを共有し同意している。又、医療機関とも連携を図りながら、納得した説明を行っている。	契約時に重度化や終末期の指針を説明し、事業所で対応可能な範囲について理解していただくようにしています。重度化した際は主治医から説明していただき、方針を決めた後に同意書を取り交わしています。年に1回は事業部で見取りに関する研修を行っている他、看取り後には職員にアンケートを実施し、アンケートを基にカンファレンスを開催して次回に活かしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。又、訓練に関しては、年に一度事業部研修の中で実施している。施設内でも、消防署の方と一緒にAEDを使った救命訓練を実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回程度の避難訓練を実施している。日中想定、夜間想定と多種多様の訓練をとり入れ、全職員が年間通して参加出来る様に努めている。又、地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。	年4回の火災(2回)・地震・防犯対策の訓練を実施しています。事業所では地域との防災協定を締結しており、災害時における相互の協力体制が構築できています。町内会の避難訓練にも職員と利用者も数名参加し、一時避難所や物資の支給場所についても確認しています。更に、子ども110番も引き受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部研修の中でプライバシー保護というテーマに添って学ぶ場を設けている。又、全体会議や正職員会議の中でも、言葉づかい・接遇などについても振り返りをして、常に意識付けをするように指導している	全職員が携行している羅針盤に「①思いやりのこもったマナーで最高のサービスを提供します。②ご利用者に敬意を払い、基本的権利、プライバシー、自己決定を尊重します。③法令・規則・約束・規律を守り、正しい勤務態度を身につけ、最高のサービスを提供します。」と明記されており、職員は常に意識付けしながらケアにあたっています。また、事業部研修でも年に1回はテーマに取り上げて学び理解を深める機会を設けています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話に傾聴をして本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重している。一人ひとりのペースに合わせて生活出来る環境を整えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、「そのひとらしい」が反映されるように努めている。外出の際の整容も、一緒に言い身だしなみには気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者の栄養士により、高齢者向けのメニューを導入している。定期的に、お楽しみメニューをとり入れ、季節に合った食事を提供している。食事の準備、片付けもご利用者の参加を促し、役割を持った生活を提供している	食材は業者からレシピ付きで発注し、調理は職員が行っていますが、盛り付けやお盆拭きは利用者役割を持った生活を送っていただけるように手伝ってもらっています。より良いメニューを提供するために、食材業者と定期的に意見交換を行うなど、利用者合った食事を提供できるようにしています。また、定期的にお楽しみメニューを取り入れ、利用者の要望を可能な限り反映させた食事も提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給と、それぞれの食事摂取量を記録に残し管理している。食事量や水分量の不足している方に関しては、捕食を準備して補っている。10時の水分摂取は、牛乳を使った飲み物を提供し、カルシウムを摂取して頂いている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア一覧表に添った口腔ケアを全職員で実施している。又、口腔ケアマネジメント計画表を作成し歯科からのアドバイスも頂き、予防にも努めている。食事前の嚥下体操も実施している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的な声掛けや誘導を実施している。その中で一人ひとりの排泄のリズムを各職員が把握し、失敗をより少なく出来る様取り組んでいる	自立している方を除き、排泄チェック表を活用しながら、タイミングや時間を見計らった声掛けで排泄支援を行っています。日中オムツを使用している方でも誘導し、座位をとってもらうようにして、トイレでの排泄を促すように心がけています。便秘の方は、極力下剤に頼らず、水分を多めに摂取していただくようにしたり、体操の時間を設けて、身体を動かすようにしています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や薬の副作用などで便秘になる事を職員間で理解し、排便コントロールに努めている。なるべく薬に頼らないように、乳酸菌やごぼう茶の摂取をして頂いている。又、日々の生活の中でも体操の時間を設け、身体を動かす時間を設けている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を目安としているが、拒否がある方については、職員の都合を押し付けずに本人がその気になるタイミングでご案内をするように心がけている。2回以上を希望される方に関しては、断る事なく入浴を楽しんで頂いている。	週2回の入浴を基本とし、午前・午後に分けて2人ずつ入浴支援を行っています。入浴を雰囲気から楽しんでもらうために、職員からアイデアを募り、夏場に浴室をハイアン風にして入浴剤を使用する等の工夫も行っていきます。また、季節に応じて週2回の入浴に加え、シャワー浴や足浴等も行う等、清潔の保持に努めています。季節のゆず湯や菖蒲湯も行っています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論、日中も午睡の時間を設けたり、個々のペースに合わせて休息して頂いている。安眠効果のあるアロマを導入する事も実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入職時のオリエンテーションで、服薬への理解をして頂き、服薬マニュアルに添って対応する事を教育している。又、薬に関する研修も事業部研修の中で実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントの際、趣味・嗜好品・日課などを伺い、生活の中に取り入れる事を実施している。又、マナー化した生活にならないように、外出する機会やレクリエーションの充実を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方に対しては、散歩や買い物にお誘いしている。又、ファミリーレストランに定期的にお誘いし、好きな物を選んで召し上がって頂いている。特別な場所への対応は、ご家族様との連携を図り、安全を配慮している	事業所の敷地には広い庭があり、周辺にも緑道や公園があるため、天気や気候が良い日には散歩や外気浴を行っています。また、園芸療法も取り入れており、できる方には花の水やり、雑草取りで参加していただき、難しい方には外気浴や花を観ながら季節感を感じていただくようにしています。町内会の行事への参加や、季節の外出行事も行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知機能に応じて、ホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。オフィスコンビニでの買い物時には、出来るだけご利用者に財布を持って頂き、支払う事への維持が出来る様な支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を利用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。又、手紙の投函も一緒にポストまで同行し投函して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、混乱を招くようなものは排除し、安心した生活が送れるように配慮している。季節ごとの飾りつけをご利用者と一緒に作成し、季節感を感じて頂いている。日付けの理解を深める取り組みとして、日めくりカレンダーを設置して、毎朝担当のご利用者にくめて頂いている	リビングは奥行きがあり、リビングを囲う形で居室が配置されています。ソファは庭が見渡せる位置とテレビの前に配置し、食卓を真ん中よりに配置することで利用者の動線と安全を確保し、壁には日めくりカレンダーやレクリエーションで作成した作品等を飾っています。リビングをよく歩かれる方がおり、その方向に「ちょこっとエクササイズ」と称した貼り紙を①～⑥まで間隔を開けて掲示することで、目的をもって生活できるように工夫しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使える様に工夫している。隣のユニットへも自由に行き来が出来る様に、渡り廊下の扉をオープンにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、ご本人の希望や使い慣れた物を持参して頂いている。自分のお部屋が覚えられない方の為に、入口にネームプレートを設置している。認知機能の低下に伴い、破壊行為が見られたときは、ご家族と相談の上、撤去し安全に生活して頂いている	エアコン、クローゼット、ベットは完備されていますが、ベットについては選択していただいています。契約時には自宅の延長として生活していただけるように、使い慣れた物や思い出の品を持ち込んでもらうことを勧めています。テレビ、机、チェスト、家族写真、ラジオ等が持ち込まれ、思い思いの居室作りがされています。また、居室で過ごすことが多くなった利用者について職員で話し合い、ベッドを外が見える位置に移動したり、窓辺に好きな花を飾り、家族の写真を引き伸ばして大きく飾る等の細やかな配慮がされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が出来る方には、自立を促し見守りを行う。又、動線に工夫してより安全に生活出来る様に支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 春風の丘

作成日 令和元年9月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	27	記録の作成が不十分	介護計画に添った記録とする	①勉強会を開催し、個人記録の重要性を理解して頂く ②介護計画のサービス内容を把握し、記録に落とし込む	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	春風の丘
ユニット名	たんぽぽ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝の朝礼時に唱和をする。又、ご利用者が主体的な生活を送れるように、要望には耳を傾ける		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	牛久保東町内会への加入をし、地域行事には積極的に参加している。又、年に一度の施設のお祭りへも地域の方を招待し、感謝を伝える場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験の場を設け、認知症支援の手助けをしたり、理解を深めて頂いている。近隣の小学校へ認知症サポーター養成講座の講師としても、毎年参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解して頂き、意見交換を行っている。また、話し合われた情報や地域の方の助言を職員間で共有し、日々のケアに活用している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加して頂いている。その中で、日々の支援への報告や助言を頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業部研修の中で、身体拘束廃止の研修を設け参加している。参加者は、全体会議の場を通じて内容を伝え、全職員に落とし込んでいる。又、3ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会を設定し、身体拘束や虐待に結びつかない様な取り組みをしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修の中で、虐待防止の研修を設けてそこに参加している。又、年に一度虐待防止チェックリストを活用し、日々のケアと照らし合わせて認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に研修に参加し、他の職員へ周知している。成年後見制度の利用されている方、又今後利用を考えているご家族へは、相談と情報の提供を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者とユニット長や計画作成担当者を同席させ、丁寧な説明と伝え洩れがない様な体制をとり入れている。その際、ご家族の要望などに関しては、ユニット長が親身に対応し、信頼関係を構築できる様につとめている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、代表者の意見や助言を伺い、反映させている。又、家族会の時にも、意見や要望を伺い、ケアに反映させている。意見箱の設置も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、正職員会議を設定し、各職員からの意見を大切に、事業所の運営に反映させている。事業部長や副事業部長にも参加して頂き、報・連・相の場としている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとに、正職員を対象とした評価制度を導入し、実績や達成評価を面談して昇給昇格へ反映出来る様につとめている。又、全職員へ業務改善に向けたアンケートを実施して、働きやすい職場環境が提供出来る様に心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で、必要な研修に参加出来る様に勤務調整している。又、月に一度の事業部研修も全職員がローテーションで参加出来る様に調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員と交流する機会を定期的に作っている。都筑エリア内のGHとの交流は、特に多く、合同イベントの実施や、お互いのお祭りへ足を運び、協力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の施設見学の際に、アセスメントを実施し、要望を伺っている。又、入居し1ヶ月間は、より手厚いケアを実施し、不安な気持ちにならないように心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時には、時間を設けて相談出来る場面を作っている。ユニット長も同席する事で、お互いの意向確認が出来る環境を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は日々変化していく事を伝え、将来の変化を予期する事は必要だが、現段階で何が必要で何が出来るのかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、日常生活の中で、家庭的な雰囲気づくりを重視し職員と共に活動して頂く様に努めている。常にご利用者が主体でいられる様な環境作りを提供している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力しあう事で、ご本人が安心した生活が送れる事を説明し、様々な場面で協力頂いている。又、毎月実施している春風喫茶にもお誘いし、ご家族様と憩いのひとときを提供している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と連携して、友人や地域の方との交流が継続出来る様に努めている。行きつけの理髪店・歯科など、顔見知りの方との関係を継続し、住み慣れた場所で生活して頂く事をサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで過ごす時間を大切にし、職員が間に入る事でコミュニケーションがスムーズに図れる環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所先の施設への訪問や、退所後の郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話での連絡も行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人と会話をし、願いや希望を聞きだし把握している。又、ニヤリ・ホットノートを活用し情報の収集に努めている。その情報を基に、カンファレンスの中で共有化し、ケアプランに反映出来る様に取り組んでいる		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用などの状況をご本人やご家族様から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースに合わせた生活を送って頂く様にコーディネートしている。毎日の日課や家事活動など、出来る限り参加して頂いている。朝礼時に、心身の状態を共有する時間を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの前に、一人一人のモニタリングを実施している。その中でプランの見直しをする時期には、全職員の意見を反映するように努めている。ご家族様へも、プランに対してのご意見を頂戴している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を出勤時に確認し、情報共有している。変化が見られた際は、カンファレンスの中で取り上げ、介護計画へ反映し、随時見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に住むボランティアの方に依頼する事で、ホーム内の多彩な活動(ちぎり絵・フラダンス・将棋・傾聴)を行い、ご利用者の生活が豊になるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を利用させていただきながら24時間365日の医療連携に努めている。初診の際は、必ずご家族とDrが面談する時間を設けご家族の希望やDrの診療方針を説明している。ご本人・ご家族が納得する診療内容になるように橋渡しをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関により、週一回看護師が訪問し、その時にご利用者の状況を共有・把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ、早期対応が出来る様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を関係医療機関に対して、速やかに提出している。又、途中経過としても適宜面会をして、様子観察に努めている。退院にむけても、入院先のソーシャルワーカーと連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回の契約時に重度化や終末期に係る指針を説明し、事業所が対応可能な範囲についてを共有し同意している。又、医療機関とも連携を図りながら、納得した説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。又、訓練に関しては、年に一度事業部研修の中で実施している。施設内でも、消防署の方と一緒にAEDを使った救命訓練を実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回程度の避難訓練を実施している。日中想定、夜間想定と多種多様の訓練をとり入れ、全職員が年間通して参加出来る様に努めている。又、地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部研修の中でプライバシー保護というテーマに添って学ぶ場を設けている。又、全体会議や正職員会議の中でも、言葉づかい・接遇などについても振り返りをして、常に意識付けをするように指導している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話に傾聴をして本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重している。一人ひとりのペースに合わせて生活出来る環境を整えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、「そのひとらしい」が反映されるように努めている。外出の際の整容も、一緒にいき身だしなみには気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者の栄養士により、高齢者向けのメニューを導入している。定期的に、お楽しみメニューをとり入れ、季節に合った食事を提供している。食事の準備、片付けもご利用者の参加を促し、役割を持った生活を提供している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給と、それぞれの食事摂取量を記録に残し管理している。食事量や水分量の不足している方に関しては、捕食を準備して補っている。10時の水分摂取は、牛乳を使った飲み物を提供し、カルシウムを摂取して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア一覧表に添った口腔ケアを全職員で実施している。又、口腔ケアマネジメント計画表を作成し歯科からのアドバイスも頂き、予防にも努めている。食事前の嚥下体操も実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的な声掛けや誘導を実施している。その中で一人ひとりの排泄のリズムを各職員が把握し、失敗をより少なく出来る様取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や薬の副作用などで便秘になる事を職員間で理解し、排便コントロールに努めている。なるべく薬に頼らないように、乳酸菌やごぼう茶の摂取をして頂いている。又、日々の生活の中でも体操の時間を設け、身体を動かす時間を設けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を目安としているが、拒否がある方については、職員の都合を押し付けずに本人がその気になるタイミングでご案内をするように心がけている。2回以上を希望される方に関しては、断る事なく入浴を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論、日中も午睡の時間を設けたり、個々のペースに合わせて休息して頂いている。安眠効果のあるアロマを導入する事も実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入職時のオリエンテーションで、服薬への理解をして頂き、服薬マニュアルに添って対応する事を教育している。又、薬に関する研修も事業部研修の中で実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントの際、趣味・嗜好品・日課などを伺い、生活の中に取り入れる事を実施している。又、マナー化した生活にならないように、外出する機会やレクリエーションの充実を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方に対しては、散歩や買い物にお誘いしている。又、ファミリーレストランに定期的にお誘いし、好きな物を選んで召し上がって頂いている。特別な場所への対応は、ご家族様との連携を図り、安全を配慮している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知機能に応じて、ホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。オフィスコンビニでの買い物時には、出来るだけご利用者に財布を持って頂き、支払う事への維持が出来る様な支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を利用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。又、手紙の投函も一緒にポストまで同行し投函して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、混乱を招くようなものは排除し、安心した生活が送れるように配慮している。季節ごとの飾りつけをご利用者と一緒に作成し、季節感を感じて頂いている。日付けの理解を深める取り組みとして、日めくりカレンダーを設置して、毎朝担当のご利用者にくめって頂いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使える様に工夫している。隣のユニットへも自由に行き来が出来る様に、渡り廊下の扉をオープンにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、ご本人の希望や使い慣れた物を持参して頂いている。自分のお部屋が覚えられない方の為に、入口にネームプレートを設置している。認知機能の低下に伴い、破壊行為が見られたときは、ご家族と相談の上、撤去し安全に生活して頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が出来る方には、自立を促し見守りを行う。又、動線に工夫してより安全に生活出来る様に支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 春風の丘

作成日 令和元年9月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	27	記録の作成が不十分	介護計画に添った記録とする	①勉強会を開催し、個人記録の重要性を理解して頂く ②介護計画のサービス内容を把握し、記録に落とし込む	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。